

愛媛大学

【N070 愛媛大学】

	愛媛大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学部（第1年次:170 第3年次:10） 大学院農学研究科（M:72） 大学院連合農学研究科（D:17）
沿 革	明治33（1900）年 愛媛県農業学校創立 明治34（1901）年 愛媛県立農業学校に改称 大正7（1918）年 愛媛県立松山農業学校に改称 昭和20（1945）年 愛媛県立農林専門学校開校（改組昇格） 昭和24（1949）年 愛媛県立松山農科大学設置 昭和29（1954）年 愛媛大学農学部設置（国立移管） 昭和42（1967）年 大学院農学研究科設置 昭和60（1985）年 大学院連合農学研究科設置
設置目的等	<p>食糧増産のための新しい知識や技術を修得した農業者を養成することを目的として、明治33年に愛媛県農業学校が創立され、翌年明治34年には愛媛県立農業学校と改称された。その後、大正7年に愛媛県立松山農業学校と改称され、さらに、昭和20年に改組昇格され、愛媛県立農林専門学校として開校した。この愛媛県立農林専門学校が、現在の愛媛大学農学部の母体と考えられている。</p> <p>昭和24年には、この愛媛県立農林専門学校を母体として、愛媛県立松山農科大学が設置され、昭和29年に国立移管され、愛媛大学農学部が設置された。</p> <p>昭和42年には、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を養成することを目的として、「大学院農学研究科（修士課程）」が設置された。</p> <p>昭和60年に、生物資源の生産と利用に関する諸科学について高度の専門的能力と豊かな学識、広い視野をもった研究者を養成し、農学の進歩と生物資源諸産業の発展に寄与することを目的として、香川大学、高知大学との連合による「大学院連合農学研究科（博士課程）（基幹校：愛媛大学）」が、東京農工大学とともにわが国初の連合大学院として設置され、農学の教育・研究体制が更に強化された。</p>

強みや特色、
社会的な役割

愛媛大学の農学分野は、愛媛県、四国地域、世界各国の多様な自然・地域資源・社会環境のもとで、地域社会や国際社会における食料・生物資源・環境に関する様々な問題を解決し、自然と人間が調和する循環型社会の創造に貢献することを目的とし、教育、研究、社会・地域貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 修士課程では、農学分野における高度な専門知識や能力を身に付けさせ、地域社会や国際社会における食料・生物資源・環境に関する様々な問題の解決に貢献できる高度技術者や研究者を育成する役割を果たす。博士課程では、先見性と独創性のある研究を通じて、学術の発展や農学分野における様々な問題の解決に貢献できる高度研究者、国際社会のリーダーとなり得る中核的な研究者を育成する役割を果たす。
- 農山漁村の地域をマネジメントする力を修得させるプログラム、地域水産業の活性化を目的とした文理融合型プログラム、新しい森林管理の在り方や技術を修得させるプログラム、国際的サーバントリーダー養成プログラム、熱帯・亜熱帯からの留学生を研究者に養成するプログラムなどの特色ある教育を進めてきた実績を生かし、グローバルに活躍できる農学系人材を養成する学部・大学院教育を目指して改善・充実を図る。
- 国から支援を受けた植物工場に関する研究、生殖生理学を基盤とした養殖水産業に関する革新的研究、医学分野と連携した食品の機能性に関する研究、新たな製紙技術や機能紙に関する研究、環境関連企業と連携した環境保全に関する研究など地域に結びついた特色ある研究の実績を活かし、農学の諸分野の研究を推進し、地域社会の発展や我が国の農学の発展に寄与する。
- 地元苗生産業者との共同研究によるトマトの高生産性栽培方法の検証、愛南町との連携による「ぎょしょく教育」の推進、地元食品産業との共同研究による機能性食品の開発、県内市町村との連携による野生獣害対策の検討など、産業界や地域社会に貢献してきた実績を生かし、愛媛県、四国地域における農林水産業とその関連産業の発展及び環境の保全、創生に寄与する。
- 社会人の修士号取得を目的とした課程に加えて、地域マネージャーや森林環境管理技術者、水産分野における6次産業化の担い手な

	<p>どの養成を目的とした履修証明プログラムなど社会人受入れの実績を生かし、社会人の学び直しや地域人材育成を推進し、愛媛県、四国地域における農林水産業とその関連産業の発展及び環境の保全や創生に寄与する。</p>
--	---